

平成28年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-210

皆さま ありがとうございます

前館長(現・県立熊谷図書館長) 代島 常造

このたびは、1年間という短い博物館勤務でしたが、4月1日から熊谷図書館長に異動いたしました。この1年間は、有形無形、実りの多い年でした。これも皆さまのおかげであると、誠に有り難く、心から感謝を申し上げます。

今度は熊谷図書館の勤務です。熊谷図書館は、「埼玉資料」のサービスを旧浦和図書館から引き続き提供しています。また、歴史・哲学分野の資料を収集する専門館でもありますので、皆さまには、ぜひ一度、お出かけくださるよう、お待ちしております。

さて、この1年間は、いろいろなことがありましたが、一番印象に残っていることは、3月21日のメキシコ大使ご家族のご来館でした。

きっかけは、杉山副館長さんが昨年11月、鎌倉鶴岡八幡宮の鎧着装イベントの指導者で行かれた時、メキシコ大使の鎧着装を手伝わられたことでした。大使は盆栽村にはよく行くが、博物館にはいったことがないとのことで、副館長さんが、今度、博物館にも来てくださいとお誘いしたことが実現したのです。

大使は、常設展の第1室、第2室をととても熱心にご覧になりました。縄文、弥生、古墳といった古代の展示に大変に興味があるということで、縄文の縄目はどのような意味かとか、大和政権はどこにあったのかとか、次から次へと質問されていました。氷河時代にアメリカ大陸とユーラシア大陸が陸続きだった時代に、両大陸間で人の交流があったと言われていいますが、メキシコ原住民と日本の古代人は、文化的に似かよったところがあり、親近感があるというお話もされていました。おかげ様でホスト役を無事につとめることができ、よい思い出になりました。

いずれにしても、とても楽しく、快適な空間で勤務ができ、皆さまとお付き合いさせていただき、望外の幸せでした。また、ふらりと立ち寄りさせていただくことも、あるいはあるかもしれないかもしれませんが、その折は、よろしく願い申し上げます。

友の会トピックス①

○博物館の人事異動について <敬称略>

<退職>

◎川上由美子 (企画、学習支援担当) 主席学芸主幹

<転出>

◎代島常造 館長→熊谷図書館 館長

◎杉山正司 副館長→文書館 館長

◎伴瀬宗一 (学習支援担当) 学芸主幹→生涯学習文化財課 課付・主幹 (岩手県教委派遣)

◎石坂俊郎 (展示担当) 学芸主幹→さきたま史跡の博物館 広報・学習支援、資料・展示、史跡整備担当 学芸主幹

◎加藤光男 (展示担当) 学芸主幹→嵐山史跡の博物館 学芸担当 学芸主幹

◎西口由子 (展示担当) 学芸主幹→県民生活部 広報広聴課 企画調整担当 主幹 (平和資料館勤務)

◎山本純二 (総務担当) 担当課長→中央環境管理事務所 企画調整・自動車対策担当 担当課長

◎服部 武 (学習支援担当) 主任学芸員→生涯学習文化財課 芸術文化推進担当 主査 (さいたま文学館勤務)

◎野中 仁 (資料調査・活用担当) 主任学芸員→さきたま史跡の博物館 資料・展示担当学芸主幹 (文化財収蔵施設勤務) (兼)嵐山史跡の博物館 学芸担当 学芸主幹

◎吉野修平 (施設担当) 主事→総合教育センター 総務担当 主事

◎小林 剛 (企画担当) 主事→生涯学習文化財課 文化財活用・博物館担当 主事

◎佐藤美弥 (展示担当) 学芸員→文書館 史料編さん担当 学芸員

<転入>

◎書上元博 館長←さきたま史跡の博物館 館長

◎西口正純 (企画、学習支援担当) 主席学芸主幹←自然の博物館 企画・広報、自然担当 学芸主幹

◎田中正夫 (展示、資料調査・活用担当) 主席学芸主幹←さきたま史跡の博物館 広報・学習支援、資料・展示、史跡整備担当 主席学芸主幹

◎高柳和子 (総務、施設担当) 担当部長←福利課 経理担当 主査

◎加藤かほ子 (企画担当) 学芸主幹←県民生活部 広報広聴課 企画調整担当 主幹 (平和資料館勤務)

◎渡 政和 (学習支援担当) 学芸主幹←嵐山史跡の博物館 学芸担当 学芸主幹

◎池田伸子 (展示担当) 主任学芸員←生涯学習文化財課 文化財活用・博物館担当 主査

◎井上かおり (展示担当) 主任学芸員←文書館 史料編さん担当 主任学芸員

◎小林正幸 (施設担当) 主任←財務課 施設企画担当 主任

◎山本賢太郎 (企画担当) 主任←熊谷図書館 総務担当 主任 (旧浦和図書館勤務)

◎杉崎茂樹 (学習支援担当) 主任専門員兼学芸員←生涯学習文化財課 課付・主幹 (福島県教委派遣)

<新規採用>

◎戸邊優美 (展示担当) 学芸員

◎西川真理子 (展示担当) 学芸員

<臨時的任用>

◎阿部楓子 (学習支援担当) 学芸員

◎渡邊智大 (展示担当) 学芸員

<館内配置換>

◎田中裕子 副館長←(展示、資料調査・活用担当) 主席学会主幹

◎岩田明広 (学習支援担当) 学会主幹←(企画担当) 学会主幹

◎中山浩彦 (資料調査・活用担当) 学会主幹←(学習支援担当) 主任学芸員

<臨時的任用任期満了>

◎川崎友梨 (学習支援担当) 学芸員

◎高橋美貴 (展示担当) 学芸員

友の会トピックス②

☆平成 28 年度には、このような講演会 (博物館共催) と見学会の計画があります。(5 月の総会で正式決定)

○5 月 21 日 (土) 講演会「浮世絵で楽しく見る江戸文化」 (本号別ページに詳細案内あり)

○6 月・見学会「上毛三碑など群馬県西部の歴史遺跡」

○6 月・講演会「日本音楽の魅力」(仮題)

○7 月・講演会「楽しくわかりやすい江戸神楽」(仮題)

○8 月・見学会「特別展協賛バスツアー」

○9 月・見学会「三峰神社など秩父の歴史遺跡」

○10 月・講演会「古代祭祀と神社の起源」(仮題)

○11 月・講演会「特別展協賛」

○12 月・見学会「岩槻・田中武兵衛・江戸時代名工の石仏を追う」

○1 月・講演会「日本の食文化をテーマとして」

○2 月・見学会「東京の古墳めぐり～多摩～」

○3 月・見学会「国分寺・国分尼寺シリーズ・武蔵国分寺」

羽根倉街道 (引又道・奥州道の2) 東所沢から柳瀬川へ

4月2日(土)に 古道探索倶楽部の第13回見学会開催

古道探索倶楽部は第13回見学会を4月2日に実施しました。今回のコースは、前回の続きで、羽根倉街道(引又道・奥州道)のその2です。参加者は26名でした。武蔵野線の「東所沢駅」から東武東上線の「柳瀬川駅」まで楽しく歩きながらの探索になりました。

最初の見学は「東福寺」(所沢市)で真っ白で大きな観音像にはビックリ、遠くからでもよく見えそう。「滝の城跡」は柳瀬川の急崖上にあり、戦国時代は北条氏照の築城と言われ、豊臣秀吉の小田原城攻略の際落城。以後廃城となったと言うことですが土塁・空堀の一部が残り、古を偲ぶことができました。

大和田氷川神社(新座市)は802年の創建と言われ、長い参道に歴史を感じる。普光明寺の創建は806年とされている。この寺の境内に「詣り墓」があり、墓石を建てる場所と遺体を土葬する場所を別にする風習が昭和40年くらいまであり、鎌倉時代の「両墓制」のなごりが伝わっていたとの事です。

三芳町の歴史民俗資料館では学芸員の丁寧な説明があり、柳瀬川駅に皆さん無事着いて解散。お疲れさまでした。曇り空ではありましたが満開の桜を見ながらの見学会でした。(詳しくは友の会ブログで)



クラブ活動 今後の予定 (参加者募集中)

◆東所沢駅～航空公園駅までの羽根倉道(引又道 その3)◆

6月4日(土)に「古道探索倶楽部」のまち歩き&見学会

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」

《日時》2016年6月4日(土) 9時30分～15時30分(予定)

《集合》JR武蔵野線・東所沢駅改札口付近(9:30)

《コース》東所沢駅→長源寺→秋津神社→秋津氷川神社→日月神社→持明寺→所沢郷土美術館→秋田家住宅店舗兼主屋→美蔵院→新光寺→薬王寺→航空公園駅(歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると約10kmです)

《費用》資料代等 300円

《持物等》歩きやすい靴及び服装・昼食弁当・飲物・カメラ等

《申込・問合せ》前日まで犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634 当日は 小俣(おまた) 携帯 090-3436-9017

《その他》少雨決行(悪天候時には、連絡します)。歩きやすい服装・靴でご参加ください。途中にコンビニが少ないので、昼食・水分は必ず事前に御用意願います。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。

《申込・問合せ》5月28日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

◆井の頭公園と水車農家の見学会◆

4月22日(金)に「浮世絵クラブ」のまち歩き&見学会

《内容》井の頭公園と春の野川公園・水車小屋

《日時》2016(平成28)年 4月22日(金) 10時～15時頃 雨天決行(各自で判断)

《行程概略》広重・名所江戸百景中の最西端「第87景 井の頭の池弁天の社」の舞台を訪ねて井の頭公園へ。午後は野川公園を経て、三鷹・大沢の里の水車(都重文・動態保存)見学。国分寺崖線には湧水と横穴墓も。調布飛行場には戦争遺産もあります。最後は近藤勇のお墓と生家跡も廻ります。

《集合》午前9時30分 JR中央線・吉祥寺駅南口(公園口)改札集合

《費用》保険代・入館料など300円。徒歩とバスで移動します。

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③「ホームページ」

浮世絵で楽しく見る 江戸文化

美人画、役者絵、名所絵など江戸のメディア・浮世絵の魅力と浮世絵を通じた江戸文化入門

今や日本を代表する文化になった浮世絵。この江戸浮世絵を通して「絵を読む」楽しみと「文化を学ぶ」楽しみを追究している研究者として各方面で活躍中の講師に、浮世絵の魅力とそこから見える江戸文化の神髄を語っていただきます。

講師 **藤澤 紫 先生** 國學院大學教授
国際浮世絵学会常任理事

日時 平成28(2016)年5月21日(土) 13時半～15時

場所 **当館講堂** 東武アーバンパークライン(東武野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

お申込みは **往復ハガキ** に、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号一を明記。返信面に①名前②住所一を記入し、5月13日(金)までに「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復ハガキの返信面をお持ちください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

御挨拶 ～若干の自己紹介も兼ねて～

歴史と民俗の博物館長 書上元博

4月1日付けで歴史と民俗の博物館長に着任いたしました。この3月までは、さきたま史跡の博物館長兼嵐山史跡の博物館長としてお世話になっておりました。

さて、今を去る30?年前、新任学芸員(考古学)として着任したのが当館の前身の埼玉県立博物館でした。当時の館長は柳田敏司先生でした。私の担当は常設展示(第1・2室及び屋外展示)でしたが、資料収集のための学術調査(神川町前組羽根倉遺跡や伊奈町大針貝塚など)にも参加し、現場での発掘作業や出土品等の整理・報告書作成作業にも従事していました。

その次に県立博物館で勤務したのは平成10・11年度でした。企画展示課に所属し、特別展「女性にはわーその装いとしぐさ」の主担当、「特別展さいたまの鉄道」や特別展「ゆ〜お風呂の文化史〜」の副担当など、多忙ながら楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。

そして、今回が16年ぶり3度目の勤務。久しぶりの博物館勤務で感動したのは、友の会やボランティアなど県民の皆さんと博物館との関係がかつて勤務していた頃より格段に深くなっていたことです。もしかしたら「行政があつらえた博物館」から「真の意味での県民の博物館」に脱皮していく大きなチャンスに直面しているのではないかと(大げさではなく)思えました。

実は、今回、歴史と民俗の博物館の館長を拝命するにあたり、県教育委員会の関根郁夫教育長から「人々が集い、つながっていく博物館」を作るよう励ましの言葉をいただきました。当館であれば、埼玉の「歴史」や「民俗」、「美術史」などをキーワードに、高齢者や若者、子どもなど様々な世代の人々が博物館に集い、学び合い、できれば一緒に何かを発信していくことができる、そのような場を提供することは今後の博物館の重要な役割ではないかと思えます。

私は、友の会やボランティアの皆さんは、単に「博物館のサポーター」というだけではなく、「一般の方々より一層も二層も深く博物館にのめりこんでいただいている利用者さん」と考えています。そして、そのような皆さんこそが、「人々が集い、つながっていく博物館」の中核になっていただける方々ではないかと期待しています。

最後に、微力ではありますが、私なりに今後の博物館像を一生懸命に考え、その実現に努めてまいりますので、よろしく御支援、御協力くださいますようお願いいたします。

友の会総会開催のご案内

5月21日(土) 友の会・28年度総会 博物館当館講堂にて 午前11時～12時 申込み不要
ぜひ、ご参加ください

今回の総会での、お考えいただきたい「問題点」は、これまで、参加費を無料として
おりました「講演会」につきまして、「有料=300円程度」とさせていただくことにつ
いての「可否」です。

- ◎ 当会の財政につきまして、ここ2年、赤字になっていることの補完をしなければなら
ないからです。一昨年から、65才以上の方も入館料が必要となり、友の会会員に
ついては「入館料無料」としているため、その負担増が毎年約15万円の赤字を生ん
でおり、講演会(毎年約28万円必要)を完全無料とすることに耐えられなくなりま
した。会費を値上げする方法もありますが、とりあえずは受益者負担(それにより
利益を受ける方に、まず、ご負担をお願いする)によることが先決と考え、「講演会
参加費を有料」とさせていただきたいとするものです。事情をご賢察のうえ、よろ
しくお願い申し上げます。 <毎年の赤字はこれまでの繰越金で対処しています>

友の会トピックス

1.今後のイベント

○5月21日(土) 博物館・友の会・共催・歴史講演会 「浮世絵で楽しく見る江戸文化」

講師・藤沢 紫先生(國學院大學教授) 既報(1時半～) 申込み受付中

東所沢駅～航空公園駅までの羽根倉道—6月4日(土)に「古道探索倶楽部」の見学会

◀日時▶2016年6月4日(土) 9時30分～15時30分(予定)

◀集合▶JR武蔵野線・東所沢駅改札口付近(9:30)

◀申込・問合せ▶5月28日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)
を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

○6月5日(日) 友の会・日本の祭り研究クラブ 「白鬚神社例大祭と向島百花園等散策」

今号に詳細発表 9時半集合 参加費100円程度 交通費等各自 申込み受付中

○6月16日(木) 友の会会員限定見学会 「世界記憶遺産候補・上野三碑と織田宗家小幡藩史跡」

今号に詳細発表 8時集合 参加費7000円

申込み受付中

井の頭公園と大沢・湧水と歴史の道を歩く

4月22日(金)に浮世絵クラブの見学会を開催

広重の大江戸名所百景の中で1点だけ離れた場所にあるのが「第87景 井の頭の池弁天の社」です。この舞台を訪ねて、朝9時半に吉祥寺駅に集合。まずは、吉祥寺駅から歩いてすぐの井の頭公園へ。豊かな水の流れる池の中にある弁財天は江戸の人々の信仰を集め、その風景を愛でにくる人々でここは名所になったようです。次いで、玉川上水の散策路を遡って三鷹駅からバスで郊外にある大沢の里へ。この付近には数軒の水車農家があり、それを動力とした小規模な工業生産がおこなわれていました。日本中にあった風景なのでしょう。最後にわれわれが降りたバス停近くにある、幕末の英雄・近藤勇の生家跡と墓所(龍源寺)も見学しました。武蔵野地域の幕末から近年に至るまでの歴史が詰まった歴史の道を発見。(詳しくは友の会ブログで)



八雲神社春季例大祭と羽村堰—歴史と文化を堪能

4月10日(日)にお祭りクラブの見学会を開催



メインは八雲神社春季例大祭の呼び物である神輿3台による水中渡御ですが、玉川上水の水源「羽村堰」を起点に桜まつりとチューリップ祭りも開催されており、周辺散策も兼ね、快適な陽気に恵まれ一日愉しく過ごしました。羽村駅に参加者7名が集合。神輿の巡幸が始まっている稻荷神社(八雲神社)に向かう。地元、羽村生まれ大菩薩峠作者「中里介山」が眠る禅林寺により、玉川上水(国指定史跡)羽村堰に向かう。急増する江戸の人口の飲料水を確保するため、羽村から新宿区四谷大木戸に至る導水する掘りの開渠水道。水中渡御(12時)の始まる前に、チューリップ祭りに向かう。多摩川と周辺の山々との自然の風景が素晴らしい。玉川上水羽村堰・さくら・チューリップ・歴史・文化そしてお祭りを堪能する。参加者の皆様お疲れ様でした。(詳しくは友の会ブログで)

クラブ活動 今後の予定(参加者募集中!)

◆目黒川沿いの「江戸名所百景」を訪ねて◆

6月24日(金)に「浮世絵クラブ」のまち歩き&見学会

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「浮世絵クラブ」

《内容》現在の都内目黒区のみ黒川に沿った地域は江戸郊外の風光明媚な名所でした。住宅・マンション群のなかで地名をたよりに、かつての風景を訪ねて歩きます。対象浮世絵は「第111景 目黒太鼓橋夕日の景」「第84景 目黒爺々が茶屋」「第23景 目黒千代が池」「第24景 目黒新富士」「第25景 目黒元富士」になります。

《行程概略》目黒駅→太鼓橋→茶屋坂→代官山→恵比寿駅の予定

《日時》2016(平成28)年6月24日(金) 9時30分~15時頃 雨天決行(各自で判断)

《集合》午前9時30分 目黒駅(JR山手線)西口改札前集合

《費用》交通費(各自)、資料代200円程度

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③「ホームページ」から

◆白髭神社例大祭と向島百花園等散策◆

6月5日(日)に白髭神社例大祭と向島百花園等散策

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「日本の祭り研究クラブ」

《内容》白髭神社例大祭と向島百花園等散策(墨田区東向島)

《行程概略》墨田区の旧寺島町にあたる「東向島・墨田・堤通・京島・八広・押上」地区の氏神様として地元の人々に支えられてきた。墨田川の東岸・墨田地区最初の夏祭りで、3年に一度、嘉永元年(1848年)作られた神社神輿が巡行。「十三番神輿渡御」とも呼ばれている。

《日時》2016(平成28)年6月5日(日) 9時30分~15時 雨天決行

《集合》東武伊勢崎線「東向島駅」改札出口 午前9時30分

《費用》交通費(電車・バス等)、保険代100円等 《持物等》歩き易い服装・昼食弁当・飲物・カメラ等

《申込・問合せ》元木孝(携帯:090-2259-1673)

世界記憶遺産候補『国特別史跡・上野三碑』

おはたはん

織田宗家の小幡藩城下町・武家屋敷・楽山園庭園

- ①高崎市・多胡碑（世界記憶遺産候補・奈良時代の建郡を伝える）と記念館 ②高崎市・金井沢碑（三家氏一族の供養碑）
③天ぷら定食を「甘楽ふるさと館」で～ ④甘楽(かんら)町・小幡藩の城下町・武家屋敷・国指定の大名庭園＝楽山園・織田宗家七代の墓～ ⑤甘楽町・こんにやくパークで「こんにやく料理」バイキングの試食
⑥富岡市・「一之宮貫前（ぬきさき）神社」＝重文の楼門・拝殿・本殿＝登り下り参道があります＝

<ご注意> ◎三碑のうち、山上碑はバスが近寄れないので、今回は見学いたしません ◎歩く場所が多く、石段あり、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけください ◎往復とも「名産品充実の上里SA」で小休憩

日 時 平成 28 年 6 月 16 日 (木) 雨天決行

出 発 午前 8 時 00 分 (時間厳守をお願いいたします)

大宮駅西口・ソニックビル西側で大型バス待ち合わせ(友の会旗掲出)

参加費 7000 円 (バス料金大幅アップ!のため) 当日集金

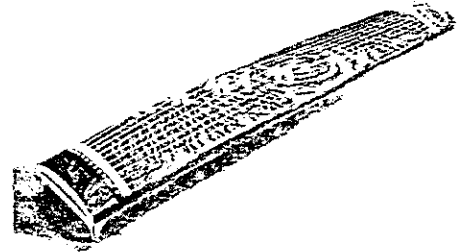
◎ご参加のお申込みは～

- ・締切期日 6月10日(金) ・定員 45名(先着順とさせていただきます) ・会員のご家族・ご友人はご参加可・申込み方法 往復ハガキに住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号(携帯番号も)を明記のこと(多胡碑記念館65才以上無料のため年齢申告要)・宛先 〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3-503-4 高瀬敏敏男へ お問合せは048-652-7324・その他、座席のご希望や集合場所地図をご希望の方はハガキに明記ください・当日緊急連絡先*携帯番号090-9104-2979 高瀬敏敏男

日本音楽の魅力

～箏の伝来と発展：

お話とお箏のしらべ～



現代人の生活の中で、耳にする機会の減った日本音楽の源流を訪ねてみましょう。生田流の箏の名手として国内および海外での演奏活動を行うかたわら、執筆や講演を通じて日本音楽をわかりやすく広めてこられた講師をお迎えして、お話と箏の生演奏を楽しみましょう。

講師は日本音楽に関する幅広い活動に尽力され、子供たちへの紹介活動や、アジアの民族楽器蒐集、日本音楽の国際化にも熱心に取り組まれています。

講師 ^{つりや まゆみ} 釣谷 真弓 (^{つりや うたふさ} 釣谷 雅楽房) 先生

(箏演奏家、日本音楽研究家)

日時 平成28(2016)年6月26日(日) 13時半～15時

場所 当館講堂 (東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分)

参加費 無料

当日は返信ハガキをお持ち下さい。

ご参加のお申込みは、往復ハガキ に イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は
会員番号 を明記、返信面に住所・氏名を記入、

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

締切6月18日(土)。 定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成28年6月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

ある墓銘碑のこと

副会長 中村 均 (草加市)

なにかの集まりの席で、同席していた女性のご主人の祖々父が蕨宿(現蕨市)で明治の初期に教育者として活躍されており、墓碑も遺されていると話された。私の知人に、歴史に名を遺した人物にかかわりのある人がいたということがなんだか嬉しくて、さっそくその人物「石川直中」の足跡を辿ってみた。蕨市の歴史民俗資料館の一面に「蕨の学校教育」というコーナーがあり、そこに石川直中の肖像写真が掲げられ、教育功労者としての事績が紹介されている。

石川直中(ただなか)は天保7年(1836)徳川譜代の儒学者の家に生まれ、20歳のとき昌平黌学問所の世話心得、24歳で主簿、27歳で奥向教授と累進した俊才であった。維新後は明治3年蕨宿及び足立郡下戸田村で私塾を開く。これが蕨郷学校で、現在の蕨市立北小学校の前身となる。その後、浦和郷学校(現さいたま市立高砂小学校)の開設に尽力。蕨、戸田、浦和における近代教育に多大な貢献をした。この当時の門人教え子たちによって、没後1周年(明治24年)に三学院に墓碑が建立された。碑の正面には高橋泥州の筆で「成蹊石川直中乃墓」と刻まれ裏面に漢文で履歴と業績が記されている。顕彰文の和訳は県教育史金石文集にも収録されていた。

石川直中の履歴で、私が最も興味を引かれたのは、戊辰戦争前後のことだった。昌平黌の教授を勤めるほどのエリート学者が戦乱の時代に翻弄されていく姿と、太平洋戦争の頃学徒動員で散っていった青年たちの姿が全く重なって見えた。まさに歴史は繰り返されているのだ。

明治元年三月兵を率いて脱走 野奥函館の間に転戦す。

明治二年五月謝罪恭順 弘前藩最勝院に謹慎(4ヶ月)函館弁天崎砲台に謹慎(3ヶ月)

明治三年一月謹慎御免本藩引渡し

これは直中自身が書いた貴重な戊辰戦争当時の履歴である。いつの時代も敗者は寡黙である。直中もおそらくこの三年間のことは、蕨においてもほとんど語らず、記録にも残さなかったに違いない。そういった意味でわずかな行ながら大変重みのある記述に思える。

ペリー来航以来、幕府の洋式軍制化は急務となり数々の変革が打ち出されたが、肝心の旗本階級に人材が少なく、直中は昌平黌の主簿と兼任で小十人組(將軍親衛隊)に組みこまれた。長州戦争当時は奥向教授という上士格の地位にいた関係か、工兵指図役頭取(大尉級)と否応なしに指揮官にさせられている。戦役では大鳥圭介の脱走軍と行動を共にして函館で終戦を迎えた。三畳間に十人が押し込められるような過酷な謹慎生活を経て、東京へ戻ったのは34歳の時だった。この難時を生き抜いた直中を支えたものは一体何だったのだろうか。太平洋戦争の学徒動員兵が戦陣の中で書物を離さなかったように、彼も漢書を懐に戦ったのかも知れないと思った。

埼玉は敗者の国であるといった人がいる。確かに古代以来この地を切り開き、地域の指導者となって発展させて来た人々には、敗者となって下野した経歴を持つ者が多いようだ。近世農村の名主階級の多くが小田原北条氏の系譜を引いていることにこの事は顕著に現れている。蕨や浦和の近代教育制度創設に尽力した石川直中もまさにそうした誇りある敗者の一人と言えよう。

(参考図書 石川直中先生とその門人達/金子吉衛著/蕨郷土史研究会刊・蕨地方史研究第1集/石川直中先生/奥光三郎著・敗者の日本史巻1 7/樋口雄彦著/吉川弘文館・幕府歩兵隊/野口武彦著/中公新書 他)

友の会トピックス

1.今後のイベント

○6月16日(木) 友の会会員限定見学会 「世界記憶遺産候補・上野三碑と織田宗家小幡藩史跡」

前号に詳細発表 8時集合 参加費7000円

満員御礼・募集締切

○6月24日(金) 友の会・浮世絵クラブ「目黒川沿いの江戸名所百景」

前号に詳細発表 9時半・目黒駅西口改札前集合 参加費200円程度 交通費各自

○6月26日(日) 博物館・友の会・共催・歴史講演会 「日本音楽の魅力」

講師・釣谷真弓(雅楽房)先生(箏演奏家・日本音楽研究家) 申込み受付中

前号に詳細発表 1時半～

○7月3日(日) 博物館・友の会・共催・歴史講演会 「神楽面から見る相模と江戸の里神楽」

講師・斉藤修平先生 神楽面師・小島正治先生 女性神楽師・柿澤瑞貴先生

この号に詳細発表 1時半～

○8月18日(木) 友の会会員限定見学会 「博物館特別展・高麗郡1300年」協賛・見学会

次号で詳細発表いたします

○9月9日(金) 江戸里神楽公演・学生実行委員会主催 この号に公演チラシ同封しております

☆9月 見学会「三峰神社など秩父の歴史遺跡」

☆10月 講演会「古代祭祀と神社の起源」(仮題) 講師・笹生 衛氏(國學院大學教授)

☆11月 講演会「特別展・徳川家康没後400年記念」協賛 詳細未定

☆12月 見学会「岩槻・田中武兵衛・江戸時代名工の石仏を追う」

☆1月 講演会「日本の食文化をテーマとして～」 詳細未定

☆2月 見学会「東京の古墳めぐり～多摩方面」

☆3月 見学会「国分寺・国分尼寺シリーズ・武蔵国分寺」

2.友の会のお手伝いをしてくださる方、募集中です

土日祝の受付などのお手伝いなどをしてくださる方、募集中です。詳細は友の会受付までお申出ください

講演会へご参加される方から、「参加費」をいただくことについて

友の会は、これまで、無料でご参加いただいておりますが、10月から、300円の参加費をいただくことといたしました。

今回のこの決定は次のような考えのもとづくものでございます。

①当会の財政状況について～

創立から健全な財政をつらぬいてまいりました友の会の財政状況は、平成25年下期から、それまで無料だった65歳以上の方々の観覧料が有料となり、友の会会員の観覧料は友の会の負担により無料とする建前をとっておりますため、友の会の負担が急増することとなりました。毎年15万円程度の赤字が発生することとなったのです。この赤字は、これまでの余剰金の取り崩しにより、穴埋めをしてきましたが、毎年毎年の赤字では、会の財政が不健全であり、余剰金もやがては底をついてしまうこととなります。

②講演会の状況について～

また、講演会には、講師謝礼など1回5万円程度の支出をしており、これまでは「友の会」の広告宣伝費にあたるものとしての割り切りから、友の会の会計から支出してきましたが、上記のように観覧料負担が増加し、その余裕がなくなってきたという状況にあります。

③受益者負担について～

会費を値上げするなどの対処策も考えましたが、会費の値上げは、あまりイベントにご参加いただけない遠隔地の方々にもご負担が及ぶ～ということで、講演会の費用は講演会に参加される方にご負担をお願いする「受益者負担」の原則を適用させていただくことといたしました。ご参加が仮に1回に100人としても参加費は300円×100人＝3万円で、講演会費用の一部をご負担いただき、会の赤字解消の一助としたいというものです。

④お願い～

会員の皆さまにも楽しんでいただいております講演会に、少額とはいえながら参加費をご負担いただくのは、誠に申し訳ないこととございますが、以上のような状況をご斟酌いただきますよう、お願いを申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

神楽面から見る 相模と江戸の里神楽

神楽面とは何か？

能面と近似性を持つ神楽面、芝居の名残りを放つ神楽面、
並べてわかる神楽面入門

第九回を迎える「楽しく、わかりやすい江戸里神楽公演」の神話劇、黙劇、
仮面劇の楽しさが次第に理解されつつあります。

相模と江戸の里神楽の違いと魅力を神楽面を通してたっぷりご紹介致します。

- ・当講演会は、9月9日のさいたま芸術劇場で`行われる里神楽をより十分に
堪能していただく講演会です。（公演に参加される方は是非ご出席を）
- ・当日は、9月9日の神楽公演（全席指定）のチケット予約も行います。

講師 齊藤修平先生（江戸里神楽公演学生実行委員会連絡窓口）

神楽面師 小島正治先生（神楽面製作の第一人者）

女性神楽師 垣澤瑞貴先生（相模里神楽を伝承）

日時 平成28年7月3日（日）13時半～15時

場所 当館講堂（東武アバント[®]-クイン大宮公園駅下車徒歩5分）

参加費 無料 当日は返信ハガキをお持ち下さい。

ご参加の申込みは往復はがきに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は

会員番号を明記、返信面に住所・氏名を記入し、6月25日（土）までに「〒330-

0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」

へ定員（150名）を超えた場合はお断りすることもあります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成28年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

夏 を 迎 え て

副館長 田 中 裕 子

今年もすでに7月。もう折り返し点を過ぎてしまいました。この時期に、「もうすぐ夏休み！」とワクワクした記憶が遠ざかってから久しく、情けないことに、「暑苦しい夏」が迫りくることを想って憂鬱になるこの頃です。

気温が上がる夏は、体力が消耗する上に、雑菌も繁殖し、病気を媒介する虫たちの活動も活発になってきます。とくに「蚊」は嫌ですね。夜中、あの独特の羽音で目が覚めるとホントに気分が悪く、安眠妨害もいいところです。近年ではデング熱等の流行もあり、油断できません。この時期の体調管理はとても重要で、悪疫となる害虫等は追い払ってしまいたいものです。

古くから、害虫を退治するために除虫菊などといった匂いの強いものが使われてきました。私の家でも、夏になると「蚊遣りブタ」が登場し、蚊取り線香が活躍していたものです。こんなことも、健康を願った「悪疫退散」のひとつと考えられるのでしょうか。

県内各地でも、本格的な夏を迎えるこの頃に、「無病息災」「悪疫退散」を願った民俗行事が行われてきました。なかでも、6月の晦日に「夏越の祓い」あるいは「輪くぐり」と称した、茅製の大きな輪をくぐる行事は、良く知られているところです。

この行事は、当館にほど近い武蔵一宮氷川神社でも行われています。

同神社では、「夏越の大祓」として、6月の晦日すなわち30日に茅の輪が設けられます。この「茅の輪」には、輪の中央上部には切り紙の大きな人形(ひとがた)が掛けられ、参拝者は茅の輪をくぐる時に8の字を描くように歩くのですが、輪の中央を通る時に人形に触れながらくぐり抜けるのです。そうすることによって、その人が持つ罪や穢れが人形にうつるのだとか。さらに、頒布されている人形に氏名等を書き、これにも自身の罪や穢れをうつして、残りの半年を健康に過ごせるよう願うのです。

茅の輪の材料となる茅(ちがや)は、あらかじめ刈り取って乾燥させておいたもので、真新しい畳のような匂いがします。その青臭い匂いが、災厄を祓う大きな役割を果たしているように思え、私の「蚊取り線香への記憶」へとつながっていきます。

同様の行事は、「氷川女體神社の名越祓え」(さいたま市)、「胎内くぐり」(熊谷市)、「鷲宮神社の夏越の祓い」(久喜市)、「お姿流し」(本庄市)等々行われています。各行事の内容については、当館で発行している『埼玉の夏祭り調査概報 I・II・III』(平成24~26年度)を御覧ください。

皆様も、この季節、体調管理をしっかりしていただいて、「無病息災」でお過ごしいただきたい。そう、切に願っています。

友の会トピックス

1.今後のイベント

○7月16日(土)～ 博物館特別展「高麗郡1300年」開始 (8月31日(水)まで)

武蔵国に高麗人を移住させ、高麗郡がおかれて1300年を記念しての特別展です。

○7月22日(金) 友の会プレミアム講座「倭王武と蝦夷」 講師：西口正純・主席学芸主幹 本号発表

埼玉と東北の関係を考古学から考える、古代ロマンあふれるお話です。

○8月3日(水) 友の会プレミアム講座「高麗郡1300年」 講師：宮原正樹・学芸員 本号発表

祖国・高句麗を離れ、関東へ移った民族の歴史はどのように語り継がれたか。

○8月18日(木) 友の会会員限定見学会 「博物館特別展・高麗郡1300年」協賛

現地・旧高麗郡=いまの日高市周辺を巡られるには絶好のチャンス。 本号発表

○8月24日(水) 友の会・スポット見学会 「越谷市浄山寺の重文指定ホヤホヤの地蔵菩薩を見る」(仮称)

今年3月に重文指定のお地蔵さまは興福寺阿修羅におとらぬイケメンです 次号にて詳細発表

○9月9日(金) 第9回江戸里神楽公演学生実行委員会主催「楽しくて、わかりやすい江戸里神楽」

=昼・13:30～ =夜・17:30～ 与野本町下車・さいたま芸術劇場小ホール

☆今回の里神楽公演だけは、ぜひ、会員の方、残らず、ご参加をお考えください！！

①二度とないチャンスですよ！

当会会員の皆さま方にご支持いただいた里神楽公演も、今回が9回目。そして、今回が最後かな？

という声も聞こえます。～ということは、気軽に「里神楽」を見られる最後のチャンスになるかもしれ

ないということ。一生の一度のチャンスかもしれない、このチャンスをお活かしてください。

②今回は江戸でなくて「相模」

今回の里神楽で取り上げられるのは、「相模里神楽」です。里神楽の「相模」と「江戸」は違うとの

こと。公演に行っていて、ますます、違いの分かる「大人」になってください。

③男気を出して。女気を出して

相模里神楽の演者は厚木市から来られます。神奈川県教委・厚木市教委の後援もありますから、そち

らの代表もお越しになるとすれば～ 空席があれば、埼玉県の恥ではありませんか！

あなたの男気と女気を、ぜひぜひ、発揮していただきたく、お願い申し上げます。

☆ご参加お申込みは～携帯090-9953-0299斉藤さん 入場料2000円(解説書こみ)

倭王武と蝦夷

～震災復興支援で感じた多賀城と埼玉のつながり～

東日本大震災の復興支援事業で、多賀城関連遺跡の調査に協力しました。多賀城は、奈良・平安時代に東北の政治・文化・軍事の拠点として8世紀初頭に設置されました。またそれ以前にも北への支配を拡大する動きがあったことは、前方後円墳の分布から推定できます。中国の歴史書『宋書倭国』によれば、倭王武は「東は毛人(えみし)を征する」とあります。行田市埼玉の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣にあるワカタケル大王はその倭王武と考えられています。ヤマト朝廷成長の過程での埼玉と東北の関連を考古学から考えてみましょう。

講師の西口さんは、日本考古学がご専門。今年度は企画と学習支援を担当され、博物館で行う事業をとおして、多くの方が広く歴史に興味を持つための努力をされています。

講師 西口 正純 氏 当館主席学芸主幹

とき 平成28年 7月22日(金)午後 1 時半～2時半

ところ 当館講堂 **事前の質問歓迎!**

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

あらかじめの質問があれば簡単にご記入ください。 締切: 7月19日(火)までに必着で、

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 へ。

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達
はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

高麗郡1300年

～高麗人たちの歴史を学ぶ～

霊亀2年(716年)、現在の飯能市や日高市を中心とする地域に1799人の高麗人が移住し、高麗郡が置かれてから今年で1300年。祖国高句麗を離れて、日本列島、そして関東の未開の地へ移った人々がどのように生き、その歴史が語り継がれてきたのか？

講師の宮原さんは、日本考古学(古代、奈良・平安時代)がご専門。今年度は、特別展「高麗郡1300年」と企画展「縄文の空間」の展示を担当されます。発掘調査や新発見など、日々更新される情報を取り入れた活動を目指してご活躍中です。

講師 宮原 正樹 氏 当館学芸員

とき 平成28年 8月3日(水)午後 1時半～2時半

ところ 当館講堂

事前の質問歓迎！

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

あらかじめの質問があれば簡単にご記入ください。

締切: 7月26日(火)までに必着で、

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達
はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

ここが、高麗王若光の生きた場所

あなたは1300年の時をさかのぼり、彼に会える

霊龜2年(716)、武蔵の国に高麗郡が置かれ、若光は渡来人をひきい、この地を開拓した。その遺跡として伝わる高麗神社・高麗家住宅・聖天院～1300年、長い時の流れをさかのぼって、私たちは若光に会えるのです。会うのです。その時、あなたは何をお話されますか。そして、高麗郷古民家、お茶の入間市博物館、室町初期の高倉寺観音堂、製糸で繁栄した石川組の迎賓館として建てられた西洋館をまわり、サイボクハムのミートショップに立ち寄って帰路につく予定です。 帰着予定18時。

日 時 平成28年8月18日(木) 雨天決行

出 発 午前8時00分 (時間厳守をお願いいたします)

大宮駅西口・ソニックビル西側で大型バス待ち合わせ(友の会旗掲出)

参加費 7000円(バス代・昼食代など) 当日集金

◎ご参加のお申込みは～

- ・ 締切期日 8月10日(水) ・ 定員 45名(先着順とさせていただきます) ・ 会員のご家族・ご友人はご参加可
- ・ 申込み方法 往復ハガキに住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号(携帯番号も)を明記し、〒330-0852 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。 その他、座席のご希望や集合場所地図をご希望の方はハガキに明記ください。
- ・ 連絡先 090-2404-9553 中村 090-4139-2740 宮川

平成 28年 8月 10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219

西武池袋線 元加治駅、 円照寺

会 員 内 田 隆 (入間市)

平成 10年 1月 10日、都民だった私は武蔵野七福神めぐりのバスツアーに参加しました。弁財天の円照寺に到着した時、すぐ脇を電車が通過、それが西武池袋線でした。元加治駅は線路を挟んで寺の向かい、次の駅は終点・飯能という位置関係、入間市のはずれです。そして七年後、縁あって越して来て早 11年が経ちました。

円照寺は武蔵七党、丹党加治氏の菩提寺で、収蔵庫に九基の貴重な板碑が残されています。一基には「元弘 3年 (1333) 5月 22日」「道峯」と刻まれており鎌倉幕府滅亡の日付の板碑です。「道峯」こと加治家貞は幕府の副将三人のうちの一人として新田義貞と小手指ヶ原、久米川で戦い破れます。太平記には「・・・一方へは桜田治部大輔貞国を大将にて、長崎二郎高重、同孫四郎左衛門、加治二郎左衛門入道に、武蔵・上野両国の勢六万余騎を相副えて上路より入間河へ向けらる」とあります。

この板碑にある道峯 (加治左衛門入道家貞) が造立者か被供養者なのか定かでは無いのですが幕府軍の副将です。北条高時と共に五月二十二日に東勝寺で自刃して果てたのだと思います。後に子孫がその供養塔を建てたのでしょうか。我が家から東、歩三分程のところに加治氏の館跡地があります。我が家の住所の小字は「馬場」です。館の西の馬場で家貞も日々乗馬の訓練に励んだことでしょうか。同じ地面の上で生きていることに加治氏への愛着を感じます。

また加治氏庶家の菩提寺がお隣飯能市の智観寺です。そこにも歴史上の事件の板碑が残っています。元久二年 (1205) 畠山重忠と鎌倉幕府軍が戦った二俣川の合戦で重忠に討たれた幕府軍の武將加治家季の三八年後の改葬供養のため、息子助季 (庶家の祖) が立てたものです。吾妻鑑には「・・・加治次郎宗季 (家季のこと) 己下多くもって重忠がために誅せらる・・・」とあります。あの畠山重忠と刃を交えた家季も現在の元加治の館で育ち、弓や乗馬の訓練をしていたことでしょうか。中世の出来事を現実のように想像出来るのも卒塔婆が緑泥石片岩で出来ていたおかげです。小川町には下里・青山板碑製作遺跡があり、ここから入間川流域に供給されていたと考えられます。

入間市内には丹党加治氏の他に村山党金子氏や宮寺氏の板碑が 350基弱確認されています。そんな歴史のある入間だとは全く知らず、狭山茶の主産地が入間市だとも知らずに越してきた私ですが、市立博物館アリットの「お茶大学」講座のおかげで「お茶」だけでなく地域の歴史も楽しく学んでいます。当レポートの板碑や緑泥石片岩のことも然り。「梵字を書こう」という講座もありました。そして今年「加治氏の館を作る」という講座に参加しています。定年の直前に元加治に越して来て入間市民になったおかげで私の後半の人生、とても賑やかです。 <参考文献 「板碑で読み解く武士と寺院」 入間市博物館>

友の会トピックス

◎これからのイベント

- 8月18日(木) 友の会見学会「高麗郡1300年」特別展協賛 <日高市・入間市> 申込み締切ました
- 8月24日(水) 友の会スポット見学会「浄山寺の地藏像・拝観」 <越谷市> この号で発表
- 9月9日(金) 第9回江戸里神楽学生実行委員会主催「楽しくて わかりやすい江戸里神楽」
公演 与野本町駅下車 さいたま芸術劇場
- 9月25日(日) 友の会見学会「三峯神社と狼信仰・金昌寺」 <秩父市> この号で発表
- 11月3日(木・祝) 博物館共催講演会「家康没後400年」特別展協賛 次号で詳細発表
講師 大石 学先生(東京学芸大学・教授)

*ご参加お申込みは「詳細発表」のあとにお願いいたします *リニューアルの群馬県歴博の見学会検討中

◎友の会からのお願い

当会会員の方で、展示室入館時に会員証を提示されないことがあったとのこと。会員の特典として「入館料免除」にはなっていますが、これは当然、会員証を提示していただくことが条件となっています。会員であっても、会員証のご提示がありませんと、会員でおられるかどうかの確認ができません。そのような場合は「入館料免除」にはなりませんので、ご了解をいただきますよう、お願いいたします。

◎半年会員制度で、お友達のご入会をおすすめください

8月から、「3月までのご入会」について、半年会員制度の適用が始まりました。会費が半年分で1000円となります。来年4月から正式会員となつていただく、「お試し入会」にも最適かと思ひます。この機会にあなたのお友達に、ご入会をおすすめいただける方はおいでになりませんか? ぜひ、ご一考ください。

JUNO 友の会クラブ通信

2016(平成28)年8月10日

活動のお知らせ&今後の予定

9月23日(金)に「まち歩きクラブ(仮称)」の意見交換会を開催します

2年間以上、「浮世絵を歩く」というテーマで主として『大江戸名所百景』にちなんで東京都内各地・各所を訪ねてきました。まだいくつか予定は続きますが、今後は、これを「まち歩きクラブ」に発展させて、より幅広いテーマで埼玉や東京、近県を散策する集まりにしたいと考えます。そこで、どの町(街)を訪問し、どう歩くのかという基本方針を考える意見交換会を開催します。お集まりいただき、自由に発言をお願いします。

《内容》「浮世絵クラブ」「まち歩きクラブ」の今後の活動のための意見交換会

《日時》2016(平成28)年9月23日(金) 10時~12時頃

《集合》博物館1階ロビー お茶を飲みながらの話し合いにします。気軽にご参加ください。

《連絡・申込》①FAX: 048-470-2758 ②「ホームページ」から ③電話: 090-1990-4807(つくい)

■今後のイベント予定■

- | | | |
|----------|----------------------|-----------------|
| ■古道探索倶楽部 | 10月02日(日) 上尾駅より伊奈屋敷跡 | 詳細は「JUNO9月号」に掲載 |
| ■浮世絵クラブ | 10月21日(金) 両国駅集合 | 詳細は「JUNO9月号」に掲載 |
| ■お祭りクラブ | 11月03日(木・祝) 入間基地航空祭 | 詳細は「JUNO9月号」に掲載 |

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会スポット見学会

地藏菩薩御開帳

一 国・重要文化財指定後初公開

越谷野島の浄山寺そこにおわしますお地藏様、一木造りの優しいお顔、脹よかなお躰に波打つ衣、遙か千二百年古の仏師が彫りし仏様、この有難きお姿を拝まねば三途の川も渡れまい、どうぞ皆様地藏盆、お詣り下さい地藏様



日 時：8月24日（水）午後1時集合

集合場所：岩槻駅改札口集合（越谷駅西口行朝日バス乗車）or

越谷駅西口集合（岩槻駅行朝日バス乗車）

行 程：バス乗車→野島下車→浄山寺→ご住職法会・拝観→「地藏信

仰について」講演（宮川会長）→三ノ宮香取神社（日本一力

持ち卯之助の力石）→埼玉県立大学（バス乗車）→せんげん

台駅（東武線）解散 ☆9世紀に遡り、県内木彫仏として最古と推定

参加費：500円（法会・拝観お札など）交通費は各自負担

応募方法：ハガキに「地藏菩薩御開帳」・住所・氏名・会員番号・電

話番号・集合場所（岩槻駅or越谷駅）を明記し、

〒330・0803 さいたま市大宮区高鼻町4・219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ

会員のご家族・ご友人は参加可

連絡先：岩槻駅 090・4965・8275 斉藤

越谷駅 080・5020・8041 小林

三峯神社と狼（おおかみ）信仰

札所4番 金昌寺（慈母観音と石仏群）

秩父の奥まった山間部に位置する三峯神社は、三峯講という山岳信仰によって支えられていますが、この地に古くから生息していたニホンオオカミとともに、関東・甲信越の狼信仰の中心となっています。それらの歴史とともにオオカミ（大神）と神社との関わりを、オオカミと人間との共存・つながりに関する民俗文化を通して体感したいと思います。なお、帰路には、子育て観音さまと石仏群で名高い金昌寺に立ち寄ります。

日 時：平成28年9月25日（日）雨天決行

出 発：午前8時00分（時間厳守）

大宮駅西口・ソニックビル西側（友の会の旗を掲げます。）

コース：大宮～高速道（圏央道・関越）～道の駅「ちちぶ」～三峰神社＝
昼食・山麓亭＝遥拝殿＝隨身門＝青銅鳥居＝拝殿＝三峰山博物館
～金昌寺～花園フォレスト（休憩）～高速道～大宮（18時頃着）

参加費：7000円（バス代・昼食代など）当日集金

◎ ご参加の申し込みは、

- ・ 定 員：45人まで（先着順とし、随時締切ります）
- ・ 申込み方法：往復はがきに、見学会の行事名（9.25 三峰神社見学会）を明記し、以下、
住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号（携帯番号も）・神社正式参拝の有無
(*)を記載して、

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 「県立歴史と民俗の博物館・友の会」宛へ。

(*)注意事項：三峰神社拝殿にて、正式参拝を希望する方が20名以上の場合には、
一人500円の追加料金（希望者のみ、別途集金）にて企画しますので、その旨を上記の申込ハガキにて、明記願います。

問合せ先： 齊藤（携帯）090-4965-8275

平成28年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

よろしくお願ひいたします 学芸員(展示担当) 戸 邊 優 美

こう言うと驚かれるのですが、私が学芸員になりたいと思ったのは、小学3年生のときでした。地元の博物館を見学したときに、展示や資料収集を行う学芸員という職種に出会い、夢を叶えるために一生懸命勉強するぞと誓ったものです。思えば、専門分野となる「民俗学」に出会ったのもこの頃でした。

その後は、家族・親族・村社会や友人関係など、人と人との社会的なつながりに興味を持って民俗学の研究を進めてきた一方で、東京都・江戸東京博物館に学芸員(専門調査員)として3年間勤務しました。前職では、江戸時代の庶民文化や幕末明治期の生活文化史を担当し、専門とは異なる分野で多くのことを経験することができました。退職した後は、民俗学や博物館学の研究をしていたのですが、やはり博物館で働きたい気持ちが強くなり、今年の4月から、埼玉県の学芸員となることができました。各地域の生活文化、関東地方との連続性を通して、埼玉県の魅力をお伝えしてゆければと思います。

皆さまにもお願ひがあります。私を見かけることがありましたら、ぜひ話しかけてください。皆さまのお話が、かけがえのない“民俗資料”となることがあります。未熟な私ですが、どんどん学んで成長してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

縁 あ れ ば 千 里 学芸員(展示担当) 西 川 真 理 子

私の専門は日本美術史で、とくに仏教美術を中心に研究しています。埼玉県は、おなじみの円空仏をはじめとした、素晴らしい仏教美術作品が多く伝存する地であることは、皆さまご存知の通りです。そんな埼玉の地とは、私が美術の勉強を始めた頃から何かとご縁のある場所でした。その中の一つを以下にお話させていただきます、自己紹介にかえさせていただければと存じます。

私がまだかよわい大学院生であった頃、記念すべき初めての作品調査が、熊谷市に所在する寺院・常光院さま所蔵の仏画「絹本著色 阿彌陀聖衆来迎図」でした。実はつい1ヶ月ほど前に展示させていただいたのですが、重要文化財に指定されているたいへん貴重な仏画です。この作品のすばらしさについては紙幅の都合上割愛させていただきますが(ぜひ直接、私までお尋ねください!)、何も知らない私が調査先として向かったのは現在勤務しております当館でした。その当時は、「こんなところで働けたら素敵ねえ」と何の気なしに言っていたものですが、縁あれば千里とはよく言ったもので、まさかこのように勤務させていただけることになるとは夢にも思っていませんでした。これからも様々な作品や多くの方々との出会いやご縁を大切に、努力を続けてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

友の会トピックス

◎これからのイベント

○9月25日(日) 友の会見学会「三峯神社と狼信仰・金昌寺」 <秩父市>

申込み締切・満員御礼

○10月8日(土) 博物館共催講演会「5世紀後半の東国を考える」

講師：右島和夫氏(群馬県立歴史博物館・館長) ～話題の金井東裏遺跡関連～

☆稲荷山古墳との関連にも言及いただける、県民として必ず聞きたい講演です

○11月3日(木・祝) 博物館共催講演会「徳川家康—その歴史的役割—」

講師：大石 学氏(東京学芸大学・教授)

☆「徳川家康 語り継がれる天下人」関連の講演会です 楽しいお話を期待!

上記2本の講演会にご参加お申込み多数となることが予想されます。会員の方は大至急お申込みください

JUNO 友の会クラブ通信

2016(平成28)年9月10日

活動のお知らせ&今後の予定

クラブ活動 今後の予定(参加者募集!)

上尾駅から伊奈氏屋敷跡へ 羽根倉街道(その4)

10月1日(土)に第15回 鎌倉古道探索倶楽部

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「古道探索倶楽部」

《日時》2016(平成28)年10月1日(土) 9時30分～15時30分(予定)

《集合》JR高崎線上尾駅改札口付近(9:30)

《コース》上尾駅→氷川鉞神社→勢至堂跡→鎌倉橋→二ツ宮氷川神社→旧鎌倉街道道標→原市→沼南駅→伊奈氏屋敷跡→丸山駅

《費用》資料代等300円

《その他》少雨決行(悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると約10kmです。歩きやすい服装・靴でご参加ください。途中にコンビニが少ないので、昼食・水分は必ず事前に御用意願います。保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。

《申込・問合せ》9月24日(土)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-1 犬走東道あて

◆両国駅から深川まで下町を歩きます◆

10月21日(金)に「浮世絵クラブ」のまち歩き&見学会

《主催》埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会「浮世絵クラブ」

《日時》2016(平成28)年10月21日(金) 9時半～15時頃 雨天決行(各自で判断)

《集合》午前9時30分 JR総武線 両国駅 西口改札前

《内容》当時の両国広小路は江戸一の繁華街。運河が縦横に流れる深川にも多くの名所。関連浮世も『第59景 両国橋大川ばた』『第58景 大はしあたけの夕立』『第56景 深川万年橋』『第68景 深川八まん山ひらき』『第105景 深川木場』『第69景 深川三十三間堂』『第66景 五百羅漢さざえ堂』『第97景 小名木川五本まつ』他多数

《行程概略》両国駅→両国橋→新大橋→万年橋→清澄庭園→富岡八幡宮 芭蕉記念館、深川江戸資料館も訪問

《費用》交通費(各自)、資料代300円程度

《持物等》徒歩で移動します。

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォーム

5 世紀後半の東国を考える

—埼玉稻荷山古墳と金井東裏遺跡を通して—

7月にリニューアルオープンの群馬県立歴史博物館で展示されている「甲（よろい）を着た武人」が出土したのが、榛名山北東麓の金井東裏遺跡。大きな話題となった、その遺跡と埼玉・行田の稻荷山古墳を結びつけてのお話です。あの武人と稻荷山をつなぐことはできるのでしょうか。つなげば、5世紀後半の東国に何が見えるのでしょうか。

講師：右島和夫先生（群馬県歴史博物館館長）

とき：平成28年10月8日（土）午後1時半～3時

ところ：当館講堂〈東武野田線・大宮公園駅下車5分〉

○ご参加のお申込みは往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・イベント名・会員の方は会員番号～を明記、返信面にはご住所・お名前をご記入、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切10月4日（火）。

定員（150名）を超えた場合はお断りすることがあります。

○当会の財政的理由により、講演会ご参加につきましておひとり300円を参加費としていただくこととなりました。ご了承をお願い申し上げます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

徳川家康

－その歴史的役割－

没後 400 年にあたる今年、この史上最も「巨大」な人物の歴史的役割についてのお話は、私たちが今後「家康」をどのように思うか～に大きな影響を与えることになるでしょう。

講師：大石 学 先生

(東京学芸大学教授/数々の歴史考証等でご活躍中)

日時：平成 28 年 11 月 3 日 (祝・木)

午後 1 時半～3 時

場所：当館講堂

(東武野田線・大宮公園駅・下車 5 分)

☆ご参加お申込みは往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・イベント名・会員の方は会員番号～を明記、返信面にはご住所・お名前をご記入、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切 10 月 25 日 (火)。定員 (150 名) を超えた場合はお断りすることもあります。

☆当会の財政的理由により、講演会ご参加につきましておひとり 300 円を参加費としていただくこととなりました。ご了承をお願い申し上げます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会